

## 学生の芸術音楽鑑賞の魅力に関する調査・研究（2）

### Research about the Charm of the Art Music Appreciation of the Students（2）

（2015年3月31日受理）

太田正清

Masakiyo Ohta

Key words : 芸術音楽鑑賞, 芸術音楽鑑賞の魅力, 吹奏楽

#### 要 旨

鑑賞・享受とは、音楽が音楽として成り立ち、音楽作品が十分な意味で生命を得るには、それが演奏されるばかりでなく、聞き手によって受けとめられ、味わわれる必要がある。この過程が鑑賞・享受といわれる。聞くという行為は、原理的には作曲や演奏の過程にも含まれているが、この過程を経て音楽活動は完全なものとなる。作品は音素材はが実際の響きとして与えられて初めて成り立つ以上、時間的に相前後し、あるいは同時に重なりあうさまざまな音を統一的に聞き取る人間の意識的な働きが前提とされるが、そうした意味での積極的な聞き方が、この鑑賞・享受という働きを支えている。

本研究では、平成26年度に子ども学科に入学した学生達が、田川伸一郎指揮／千葉県市川市立大柏小学校吹奏楽部の序曲「ピータールー」作品97／M.アーノルド 編曲：近藤久敦の演奏をどのように鑑賞したかを3で、また、佐渡裕指揮／シエナ・ウインド・オーケストラの「シング・シング・シング」（L.プリマ／編曲：岩井直博）の演奏をどのように鑑賞したかを4で、彼等の記述から考察したものである。

#### 1. 鑑賞・享受とは

鑑賞・享受<sup>1)</sup>とはブリタニカ国際百科事典3によれば、音楽が音楽として成り立ち音楽作品が十分な意味で生命を得るには、それが演奏されるばかりでなく、聞き手によって受けとめられ、味わわれる必要がある。この過程が鑑賞・享受といわれる。もちろん聞くという行為は、原理的には作曲や演奏の過程にも含まれているが、この過程を経て音楽活動は完全なものとなる。作品は音素材はが実際の響きとして与えられて初めて成り立つ以上、時間的に相前後し、あるいは同時に重なりあうさまざまな音を統一的に聞き取る人間の意識的な働きが前提とされるが、そうした意味での積極的な聞き方が、この鑑賞あるいは享受という働きを支えている。

しかしながら、鑑賞・享受にもさまざまなタイプがみられる。響いては消えていく音の流れに身をゆだねて、快い感覚的刺激によって生ずる気分情調にひたる形もあれば、もっと積極的に作品を聞きながらも、聞き手の主観的なあるいは感情的な世界とつながりを強調して、作品とは直接関係のない世界を作りあげてしまうという形もある。こうした聞き方では、音楽はいわば感情の刺激剤、あるいは誘発剤の役割を負わされるわけで、いわば病的享受（ハンスリックの表現）と考えられる。

他方、音楽作品の形式構造に注目し、作品の内的秩序を響きを通して聞き取り、理解する形の享受もある。これは音楽作品を作品として十分な形で理解し把握するのであるため、美的享受と呼ばれることがある。こうした美的享受の形の聞き方であっても、もとよりその深さ、

段階は一樣ではなく、利き手の音楽的能力や知識などに依存することが多いばかりか、同じ聞き手にあっても、その聞き方は固定的で不変なものではない。

鑑賞・享受は、聞き手の音楽体験の場であり、聞き手の音楽的能力が十二分に行かされる必要があるが、そうした形で行われた場合、聞き手の側に作品に対する価値判断、評価が生ずる。作品の評価といっても、作品の形式構造に向けられる場合もあり、また作品の表現内容にかかわる場合もある。

なお、音楽体験の場としての鑑賞・享受は、実際の演奏を聞くか、あるいはみずから演奏を通して行われるのが従来のあり方であったが、現代においてはそうした演奏会場などの枠をこえ、レコードやテープ、あるいはラジオやテレビ放送などの媒体を通じて広く行われるようになった。そのため、鑑賞・享受の対象となる音楽は、時代的にもまた地域的にもきわめて広範なものとなっている。従って、聞き手にとっての音楽体験としての鑑賞・享受も、また複雑な様相を強めてきている。

## 2. 吹 奏 楽

広義には吹奏楽器による音楽一般を指し、ドイツ語の Blasmusik がこれにあたる<sup>2)</sup>。弦楽あるいは管弦楽に対する語で管楽という言葉も同様である。小編成の室内楽から大編成の野外音楽まで、木管のみ、あるいは金管のみのアンサンブルから、木管・金管に打楽器やときには弦バス等の一部弦楽器を補助的に加えたいわゆる「吹奏楽団」までを含んでいる。

狭義の吹奏楽はこの最後の形による音楽を意味している。これに対して「管楽」は、どちらかといえば、各パートを重ねないより小さい編成のものを指すことが多い。

日本では一般に吹奏楽を狭義に用いることが多いが、これは明治初期にヨーロッパ式軍制を輸入した際、その一環としてとり入れられた軍楽隊によって初めて紹介されたためであろう。また、当時の欧米では近代軍制整備の波によって軍楽隊の勢力が拡大し、「吹奏楽」の形が標準化されており、その反面、18世紀まで盛んだった民間の管楽の諸形態は衰退して日本には伝わらなかったことにも起因している。民間の管楽は、欧米でもアルプス周辺あるいはスペイン（カタルーニャのコブラ）等の一

部民族音楽系の楽団や、やがて黒人の間からジャズを生むに至ったアメリカのバンド等を残す程度の状況であった。

そもそも英語には吹奏楽に対する語がなく、長い間 military music, military Band を吹奏楽の総称として用いてきた。しかし、最近ではミリタリー・バンドというよりも単にバンドというようになり、また楽器編成によって wind ensemble (管楽アンサンブル), wind orchestra, concert band (以上、いずれも吹奏楽団), brass ensemble (金管アンサンブル), brass band (金管バンド) 等と呼び分けている。なお日本でブラス・バンドを吹奏楽団の意味に使うのは誤りである。

## 2. ブラス・バンド

本来の意味は「金管合奏団」<sup>3)</sup>。日本では「吹奏楽団」の意味にも使われているが誤りである。ドイツ語ではブレヒムジーク Blechmusik, フランス語ではファンファール (→ファンファーレ) がブラス・バンドにあたる言葉である。

今日のブラス・バンドは、サクソルン族の金管楽器に打楽器を加えた20数名の編成が標準となっている。金管合奏は古くは17～18世紀のトゥルムムジークなどの中で栄えたが、同族楽器サクソルンによって編成する今日の形のブラス・バンドの始まりは、サクソルンの発明者 A. サックスが、ベルリオーズの力を借りて1844年にパリで発表した一連の自作の楽器を中心にした合奏団である。これはフランスでは注目されなかったが、イギリスで4人の息子とともに金管5重奏団をつくっていたディスティン John Distin (1793～1863, のちに楽器製造業者となる) がこれをとり入れ、イギリスに紹介してから爆発的に流行した。当時のイギリスでは、頻発した労働争議対策の1種として職場音楽運動が推奨されていたこともあって、アマチュアにも演奏しやすく、音色もバランスがとれたこの合奏が、まずブルー・カラーの間に広がっていった。現在はイギリス本国だけで4,000以上の団体があるといわれ、コンクールなどの活動も盛んである。

奏法や記譜法が統一され、楽器間の持替えが比較的容易なうえに、音色が柔らかく、同族楽器でアンサンブ

ルがしやすいことなどが特徴で、編曲物から一流作曲家によるオリジナル作品まで、レパートリーも広い。

なお、イギリスの吹奏楽団や軍楽隊は、このブラス・バンドに木管楽器とトランペットを加えた形の編成が多く、他国とは違った色合いをもっている。

### 3. 小学生と吹奏楽

筆者は、平成26年の子ども学科の“芸術”の授業の中で小学生の吹奏楽を学生に鑑賞させた。学生は小学生の吹奏楽演奏水準の高さに舌を巻いた。まずは、千葉県県内の公立小学校で吹奏楽を指導した田川伸一郎<sup>4)</sup>が記述した文章から田川が“どのようにして小学生を吹奏楽に傾注させていったのか”について考えてみたい。田川は次の様に述べている。

昭和55年4月、千葉大学教育学部を卒業して、畑に囲まれた千葉市立犢橋小学校の音楽専科教諭となった私。授業の他には何もないただの「音楽の先生」だった。授業だけでの子どもとのつき合いだけではどこか寂しく、子どもたちと何かを夢中になってやりたかった私は、夏は水泳指導に、秋は運動会の応援団や陸上大会に向けての指導、何もなければサッカー部やバスケット部の応援にと、ともかく子どもが頑張る場に居合わせる「時」を探していた。

しかし、自分らしくない自分のかかわり方に、次第に空しささえ感じるようになっていった。「子どもたちと音楽がしたい。授業だけでなく、もっともっと。自分の青春だった吹奏楽を……。」

楽器もない、指導力もない、学校の中でバンドを立ち上げる正しい道もわからない私だったが、一歩ずつ動き始めた。

学校にあったアコーディオン、鍵盤ハーモニカ、木琴や鉄琴、オンボロの打楽器たち。そんないわゆる「教育楽器」に、借り物の管楽器をほんの少し加え、「合奏部」を作らせてもらった。管楽器の教則本を買い込み、1ページずつ読みながら、子どもたちに伝えていった。管楽器の音が並ぶまでは、「教育楽器」が主役の合奏団だった。

頼りなく、つまらない私の指導に、いつしか子どもたちは、練習をサボるようになっていった。何の断りもなく、いつの間にか辞めてしまっている子も出てきた。乗

りかかった船のあまりのみすぼらしさに、自分自身で涙しながら、ひとりトランペットの練習をする日もあった。

しかし、私は「あきらめる」ということを絶対にしなかった。ほんの少しずつでもいい、前に進むのだと……「楽器がほしい。」……私は自腹で楽器を買った。保護者の協力の元、日曜日返上の「廃品回収」にも取り組んだ。朝から夕方まで、私は先頭に立ってリヤカーをひき、地域を回って、新聞紙や空瓶などを集めた。当時は、それが確実にお金になっていく時代だった。

「合奏部」を発足させて1年も経たない教師2年目。私は、子どもたちと大きな大きな「挑戦」をした。『TBS こども音楽コンクール』に参加することにしたのだ。選んだ曲はネリベリ作曲『フェスティーボ』だった。打楽器をやって来た私は打楽器を教えるのだけは得意だった。まだ木管楽器がそろわず、アコーディオンや鍵盤ハーモニカを木管代わりに多数使っていたので、この曲なら不自然さがなく、演奏できるのではないかと思ったのである。

昭和56年9月23日、私の教師人生初の記念すべき「コンクール」だった。何日も前から眠れない日々が続いた。当日、保護者も応援バスを借り切って、会場へ駆けつけてくださった。本番では指揮の手が震え、足が震え、汗が噴き出し、何が何だかわからなくなってしまったが、子どもたちは堂々と練習の成果を発揮して演奏してくれた。演奏後、たくさんの保護者が拍手と涙で私と子どもたちを迎えてくれた。審査結果は、思ってもみなかった「優秀賞（TBSこども音楽コンクールでは「金賞」に値する賞）」だった。大喜ぶする子どもたちに、「もっと上手くなれば、千葉県代表に選ばれて、東日本大会という東京での大会に出られるんだよ。」「よし、来年は東日本大会が目標だ!」

最後までがんばりぬいた6年生の子どもたちは、「先生、来年は、後輩たちを東日本大会へ連れて行ってください!」という言葉を残して卒業して行った。

翌年度も日曜日の廃品回収を続け、管楽器も増えていった。部の雰囲気も、完璧に「本気モード」になった。「東日本大会」を目指して、子どもたちと取り組んだ曲は、事もあろうにA.リード作曲『アルメニアンダンスパートII・第三楽章』だった。でも、子どもたちは合奏の面白さがわかってきただけあって、夢中になって練習に励

み、念願の「東日本大会」へと駒を進めることができた。東京郵便貯金ホールステージに、まだ生まれて間もない合奏団が登場した。ここでも子どもたちの心臓の強さに敬服した。堂々の演奏で「優秀賞」を受賞。県大会の「優秀賞」とは重みが違う。そして、「最優秀賞」を受賞して歓声をあげる他校の様子をそばに見て、私と子どもたちは、「来年は、東日本大会最終週。そして、日本一が目標だ。」と、夢に近い合言葉を生んだ。

翌年、昭和58年度も、もちろん廃品回収を続けた。中には個人で楽器を買う子どもも出てきて、ほとんど吹奏楽の編成になった。子どもたちも保護者も学校体制も、思い切り活動するには何の不自由も問題もないほどの良い状態だった。A.リード作曲『吹奏楽のための第二組曲・第2・4楽章』を選んだ。『TBS子ども音楽コンクール』では、東日本大会で、夢の「最優秀賞」を受賞し、続くテープ審査による全国大会でも、「全国一位・文部大臣奨励賞」を受賞することができた。

「情熱と感謝があれば、必ず音楽が鳴り響くようになる」……中学校時代の恩師。澤田光夫先生がくださったこの言葉を信じ、歩んだ新卒校での4年間は、今でも私の誇りと支えになっている。

若さゆえ、子どもたちと、「コンクールでの入賞」を大きな目標と喜びにして歩んだ日々だったが、かと言って、「純粋に音楽する心」、そして、「人としての学びと育ち」を大切にすることは、決して失うことがなかった。それがなければ、今の私はなかったと思う。

平成4年4月、市川市立大柏小学校に転勤。初めて、「バンドを受け継ぐ」という体験をした。冷暖房完備の音楽室、豊かな市・学校・保護者の支援によって、私ができる存分の指導をさせていただいた。吹奏楽コンクールでは、1年目から全国大会出場。2年目から8年目は、TBS子ども音楽コンクール、全国学校合奏コンクールなどで7年連続の「全国一位」を受賞した。そして、年度末には、約2000人収容の市川市民文化会館大ホールをお借りしての定期演奏会を毎年開催させていただいた。市内はもちろん全国からたくさんの方々にお越しいただき、毎年、満席のお客様に見守られて演奏させていただいた。

平成5年度には、サントリーホールでおこなわれた「現代音楽の祭典『吹楽Ⅱ』」に平成7年度には、ブレーン社

刊行のビデオマガジン『ウィンズ』で、「小さなエンターティナー」と称して、練習の様子が特集され、その後、小学校の先生だけでなく、中学校・高校の先生方からたくさんのお見学訪問を受けた。平成9年年度には、北海道上磯町から招待を受け、5・6年生部員が演奏旅行をさせていただいた。上磯小学校吹奏楽部の皆さんと一緒に『フレンドリー・ジョイントコンサート』を開催させていただいた。

このように田川は、千葉県内の公立小学校で吹奏楽の指導を行い、平成22年3月末をもって小学校教諭を退職した。

田川の30年間の集大成ともいえるDVD<sup>5)</sup>(市川市立大柏小学校吹奏楽平成8年度 第19回定期演奏会より序曲「ピータールー」作品97/M.アーノルド 編曲:近藤久敦)を鑑賞した学生は次の様な記述をした。

(男子学生1)小学生なのに縦の線も横の線も合っていて、スネアのロールもすごい。こまかくてとても上手であった。また、楽器にしっかり息も入っているし、迫力のある演奏であった。また、ソプラノ・サクソフォンも上手く吹きこなしていた。また、児童の指の回り具合は素晴らしい。また、見事にスウィングできているところがあった。

剣に取り組んでいるところがすごい。途中でバスドラムソロがあったが、あの大人数の中で失敗しない集中力は凄い。前から後ろからも視線を集めているのにパフォーマンスを完璧にきめてしまうのは凄い。

(男子学生3)小学生としては極めて上手である。ドラムのソロが凄い。バチの動きが凄い。雰囲気は何か古典的である。

(男子学生4)小学生とは思えぬ演奏に舌を巻いた。ホールを借り切ったの演奏会であったが、ホールでの演奏に見合う質の高さである。演奏技術だけでなく、表現力も素晴らしい。定期演奏会で演奏する全ての曲が暗譜というのにも驚愕した。

(男子学生5)初めの穏やかな感じからだんだんと激しくなった。はじめの方は、嵐の前の静けさということか。

(男子学生6)小学校がここまで凄い演奏をしていることに驚いた。これも指導者(指揮者)に力があるからであろう。

(男子学生7)全て暗譜でやるので、凄いと思った。子



どもの方が飲み込みが速く、大人より速く上達するのではと思った。

（女子学生1）小学生が行っている演奏とは思えないほど素晴らしい演奏であった。音の強弱がはっきりしていたし、迫力のある演奏だ。全国大会に出るほどの実力なので小学生でも私の思っていたのと違い、凄いと思った。

（女子学生2）小学生がホールで演奏している姿を見ることや、小学校で吹奏楽の部活動をしていること自体あまりないことなのでとても驚いた。ソロ演奏の児童もいてレベルは極めて高いと思った。打楽器で盛り上げるところが迫力があり、素晴らしかった。とても感動した。

（女子学生3）まだ小学生のレベルなのにとっても力強い音が出ていて、すごく迫力があつた。また、バラード調の部分では、とてもゆったりして綺麗な音色であったので、この間までヨーロッパの音楽を聞いて感動していたのだけれど、もっと凄いなと思った。児童みんなの心が一つになっているように感じた。同時に、自分の学習発表会の時のことを思い出した。それにしてもこの大人数の児童がいてみんなこんなにレベルの高いことに驚いた。

（女子学生4）本日は子どもたちの吹奏楽演奏を聴いた。すごく上手かった。自分がむかしやっていた吹奏楽を思い出してしまった。多くの児童が力強く吹いていた。特にトランペットは目立つし、恰好がよかった。また、自分も吹きたくなった。

（女子学生5）小学校がこんなにも上手く演奏することに驚いた。しかも、音がよく合っていた。また、強弱もとても上手くつけていた。どのように練習してこんなに上手く演奏できるのか知りたくなった。

（女子学生6）小学生なのに音がしっかり出ていて凄い。全員暗譜も凄い。トランペットは運指が極めてはやくて上手いので練習したのだなと思った。

（女子学生7）小学生の吹奏楽演奏を初めて聴いた。小学生でもこんな力強い演奏をするのだと思った。全員暗譜であり大人より優れていると思った。

（女子学生8）ピータールーは初めて聴いた。この楽団はとても大編成であった。特にパーカッションが優れていた。

（女子学生9）小学生の吹奏楽は、ヨーロッパの音楽とは違い、リズムに面白さがあった。ハーモニーもとても

綺麗であった。小学生とは思えないくらい表現力豊かであった。全員暗譜で大人以上の能力である。

（女子学生10）小学生の演奏で凄いと聞いていたが、予想を遙かに超えた凄い演奏であった。楽器編成がとても充実していて、オーボエ、ファゴット、ソプラノ・サクソフォン等も入れてあり感心した。また、表現力抜群であった。全員暗譜も大人以上だ。

（女子学生12）小学生の吹奏楽だが、高度な演奏技術を備えていた。特にパーカッション。

（女子学生13）この小学生の吹奏楽団はパーカッションが優れていた。自分も小学生の時に吹奏楽をやっていたので非常になつかしく感じた。

（女子学生17）パーカッションの迫力が凄い。全員暗譜であり、大人より能力がある。ソプラノ・サクソフォンの演奏が素晴らしく、マリンバとよくマッチしていた。途中で小学生の歌声もありとても効果的であった。最後のティンパニの演奏はとても優れていた。木管のメロディとグロッケン音がとてもマッチしていた。アルト・サクソフォンのソロも非常に優れていた。ティンパニのロールは非常に上手かった。クラリネットはとても大人数なのに見事に統一されていた。

（女子学生18）まだ小学生で身体も小さいのに迫力のある演奏にとっても驚いた。それに音色も極めて綺麗だ。暗譜にもびっくりした。

（女子学生19）とても小学生が演奏しているとは思えない。曲は凄く大人ばいのに表現の仕方が上手く感動した。

（女子学生20）序曲「ピータールー」作品97/M.アーノルド 編曲：近藤久敦は初めて聴いた曲であった。小学生の演奏だとは思えないくらい綺麗で迫力のある演奏であった。本当に驚いた。全員暗譜にも驚いた。また、全員が身体を使った演奏をしていて観ている方も身体を動かしたい欲求に駆られた。

（女子学生23）小学校の吹奏楽部がホール（市川市文化会館大ホール）を借り切って定期演奏会をすること自体普通はあり得ないと思った。しかし、この小学生の演奏は誰一人として小学生には見えなかった。全員が指揮者を見て演奏していることに感動した。しかも、全員暗譜であったことにも驚いた。

（女子学生24）小学生の演奏であったが、表情豊かに、身体を揺らしながらの演奏であり素晴らしかった。全員指

揮者を見ており強弱も緩急も合っていた。一番凄いと  
思ったことは暗譜であった。しかも、コンサートの全曲  
であった。

(女子学生26) ティンパニ奏者が男子小学生かと思っ  
たのだが女子小学生であり驚いた。特に、パーカッション  
が上手であった。小学生でここまで出来るなんて、何年  
生からやっているのだろうか。

(女子学生27) 小学生の演奏とは思えないくらい滑らか  
でゆっくり優しい感じのメロディが伝わってくる。一人  
一人が自分の演奏するパートを意識しており、みんな  
で協力し合って演奏しているのがわかる。私には吹奏楽の  
経験はない。中学生の頃、友達のトランペットを吹かせ  
てもらったことがあるけれど一回も音は出なかった。演  
奏することは難しいと思った。この小学校の演奏はとて  
も凄いとしたり、自分も幼い頃もう少し楽器や音楽に  
触れておきたかったなあと考えた。

(女子学生28) まだ小学生なのにすごいなあと考えた。  
私は中学生のときトランペットを吹いていたので小学  
生であんなに上手に演奏していて素晴らしいなあと考  
えた。

(女子学生29) 小学生の演奏はいいなあと考えた。暗譜  
でも全く間違えないのは凄かった。あのように演奏す  
る小学生を今までに見たことがなかった。

(女子学生31) これはDVDであったが、もしCDで聴い  
ていたらこの演奏は中学生や高校生のものかわらな  
いと思った。この小学生は一日にどれくらい練習して  
いるのか、また何年生頃からやっといえるのだろうか  
かと思ったりくらい上手かったです。小学生でも高  
校生に負けない演奏はできるのだと思った。

(女子学生33) 小学生なのに非常に豊かな音色であ  
った。中学・高校に負けない演奏であった。是非とも  
生演奏を聴いてみたい。

(女子学生34) 小学生とは思えないくらい高水準の  
演奏であった。また、コンサート全曲暗譜にも驚いた。  
パーカッションが特に優れており、複数打楽器を使  
いこなす児童がいることに驚いた。

(女子学生35) 小学生の高水準演奏に驚愕した。特  
にパーカッションが凄く。やはり、大人になって小学  
生時代に何をやっておけば良かったのかに気付か  
されてしまうことが多いと思う。

(女子学生36) 序曲「ピータールー」は小学生の  
演奏とは思えないくらい素晴らしかった。まるで高  
校生の演奏である。また、全曲暗譜も驚異的だ。

(女子学生39) とても小学生の演奏とは思えな  
かった。正直とても驚いた。もしこの演奏をCDで  
聴いていたなら大人の演奏かと思うだろう。また、  
暗譜演奏にも非常に驚いた。大人はどれだけ練習  
しても本番演奏に楽譜を必要とする人が大半だ。

#### 4. プロフェッショナルの吹奏楽

佐渡裕指揮“シエナウインドアンサンブル”の  
演奏(「シング・シング・シング」 L. プリマ／編曲：  
岩井直博)<sup>6)</sup>を鑑賞した学生の鑑賞評を記述した。

(男子学生3) やはりジャズが一番好き。「シング・  
シング・シング」は、本当に好きな曲だからよ  
かった。

(男子学生4) 陽気なスタートであった。アメリカ  
によくあるような陽気な雰囲気音楽であった。ドラ  
ムのソロが多いなと思った。それにドラムの音も  
Jポップであるような濁った音じゃなくて、籠も  
った様な音だなと思った。トランペットのソロ  
演奏の時間が結構長く指の動きも速く、凄く技  
術を持っているんだなと思った。その後クラリ  
ネットのソロがあった。ソロに入る直前に一  
斉にその他の楽器が演奏を止め、とても静かな  
曲調になり、それまでの陽気な曲調が一気に静  
かになったから、曲のメリハリが凄く強いなと  
思った。タンバリン奏者がとても楽しそうに  
演奏していたので、自分も演奏してみたいな  
と思った。

(男子学生5) 「シング・シング・シング」は  
はじめから楽しくなれるような曲だと思っ  
た。途中のトランペットのソロの部分が聴  
いていてとても楽しかった。

(男子学生6) ポップで軽やかでとても盛り  
上がりがあった。オーディエンスの盛り  
上がりが凄くて、会場の盛り上がりを感じ  
た。会場と一緒に楽しもうとしていて  
とても雰囲気が良かった。関が前に  
近いと後ろとは全然違う迫力があ  
った。

(男子学生7) 楽器の音だけでなく、音楽  
に合わせて手拍子もあって、皆で一つ  
の音楽を作っているようであった。オー  
ケストラの時にはなかったドラム  
などの楽器もあった。立って演奏  
したり、楽器を振りながら演奏した

りなどたのしそうだと思った。

（男子学生8）数秒鑑賞してお客さん達も演奏者の一員なんだと思った。今までに観たものと違ってお客さんも手拍子を打っていた。私は、ドラムスに熱いものを感じた。

（男子学生9）盛り上がり方が凄かった。始まり方がドラムソロで斬新であった。指揮者はあれだけ多くの演奏者をよくまとめていて凄いと思った。

（女子学生1）オーケストラの中にドラムを叩いている人がいて驚いた。ドラムにオーケストラのイメージがなかったけれど、演奏を聴いているとドラムが入ることで今までとは雰囲気が変わって、とても良いと思った。曲調が違うので聴いていて楽しい気分になれるので凄いと感じた。

（女子学生2）「VIVA!」の「シング・シング・シング」という曲は、明るくて、ノリがよくて、聴いていてとても楽しくなるような曲であった。ドラムが加わっていてリズムも良くて沢山の演奏の最初の曲としてとてもふさわしいと思った。トランペットやクラリネットがソロで演奏しているところがとても綺麗であった。ソロが終わって沢山の楽器が一気に演奏を初めて、音が急に大きくなるということもとても綺麗だと思った。

（女子学生4）「シング・シング・シング」は、よく聴いていて、吹奏楽部の時にも吹いたことがあったので懐かしかった。全ての楽器がとてもよい音、リズムであったので、ずっと聴いていられる感じであった。トランペットのソロはやはり綺麗で、好きです。感動した。木琴を久しぶりに見た。落ち着く音で良かった。フルートとクラリネットのソロがとても綺麗であった。

（女子学生5）元気な曲で、楽しい雰囲気であり、踊り出したいくなるような音楽であった。リズムははっきりしているのりやすい曲だと思った。音の強弱が心地よくて素敵だと思った。ポップな曲という表現があるのだと思った。

（女子学生6）「シング・シング・シング」はDVDで鑑賞したことはあったけれど本日のような吹奏楽オーケストラ演奏は初めてであった。私が聴いたものとは違ってサクソフォンソロがないのかなと思った。本日の演奏はソロの高音がすごく綺麗であった。ジャズっぽさが溢れていて聴いていてとても楽しいものだ。オーケス

トラでただ聴くだけではなく、曲の説明があったり、聴衆も参加し、すごく楽しい企画であると感じた。ただ聴くだけではなく、聴衆も表現に参加できる機会を設けていることはすごくいいことであると思う。

（女子学生7）「シング・シング・シング」のタイトルは知らなかった。しかし、聴いたことのある曲であった。ドラムが格好良かった。

（女子学生8）「シング・シング・シング」は何度も聴いたことがあった。改めて聴いてみるとクラリネットのソロが綺麗であった。また、トランペットのソロもあり素敵であった。また、パーカッションもとても良かった。

（女子学生9）「シング・シング・シング」はよく耳にする曲である。とてもリズムカルで、ノリのよい曲である。始まってすぐ聴衆の手拍子がいっているところが凄と思った。ドラムが凄かった。いつも脇役であるかのようなドラムはこの曲では主役に躍り出ることがある。また、ドラムが刻むビートの上に色々なソロ楽器を載せることができる。ソロ楽器のスタンドプレーがとても良かった。ジャズの曲調である。

（女子学生10）「シング・シング・シング」はエレクトーンで演奏したことがあり、とても好きな曲である。この曲を耳にした途端すごくテンションが上がった。各ソロ楽器の特性がよく発揮できる曲である。トランペットの音は迫力がありよいと思った。打楽器の音も良いし、何よりリズムが好きである。ドラムも目立ってとても良い。

（女子学生11）この曲（「シング・シング・シング」）は聴いたことがある。とても楽しそうなイメージである。ソロはやはりどのソロも綺麗である。ドラムのソロは初めて見た。極めて恰好良かったです。この楽団は女性も多く活躍していた。

（女子学生13）「シング・シング・シング」は好きな曲であるから聴いていてとても楽しくなる。トランペットソロがよく聞こえたり、打楽器も活躍するところがあった。全部の楽器のそれぞれのよいところを出せる曲だと思った。トランペットとクラリネットのソロの時聴衆は息を潜めて聴き入っており、ソロが終われば、やんやの拍手である。

（女子学生14）「シング・シング・シング」は本当に鳥肌がたった。トランペットとクラリネットのソロは技術も表現も素晴らしく感動した。

(女子学生15)「シング・シング・シング」では、ドラムが恰好良いと思った。トランペットのソロも恰好良いと思った。クラリネットソロの最初は回りはだいぶ配慮して小さく音を出していたが、次第に音量を上げクラリネットが頂点に達した時点で回りも非常に豊かな音量になっていた。

(女子学生16)「シング・シング・シング」は聴衆との一体感の感じられる曲である。ドラムの音はとても恰好が良い。トランペットのソロもよく響き渡る。楽しいジャズである。

(女子学生18)「シング・シング・シング」は聴いていてとても楽しい。ドラムの存在感が凄かった。ずっと盛り上がりっぱなしで良かった。自分の好きな映画にもこの曲が出てくるので、映画を見たくなった。奏者全員が曲の最後に立つのも非常に効果的であると思った。

(女子学生19)「シング・シング・シング」は聴いたことがある。吹奏楽で演奏したので極めて楽しかった。一つ一つのソロが長いのと表現の仕方が印象的であった。トランペットの高音がよく聞こえて凄いと思った。

(女子学生20)「シング・シング・シング」は中学校時代から吹奏楽部がよく演奏していた曲であったため、よく聴いた曲である。曲調もよくて、私の好きな曲である。久々に聴きましたが、やはり好きだと思った。曲の最後は全員立奏で凄くたのしそでした。

(女子学生21)「シング・シング・シング」はシエナの演奏で聴いたことがある。DVDを視聴してその時と同じ感情になった。壮大である。凄く興奮した。シエナは音が大きいだけではなく、一つ一つの音が丁寧であると思った。特にソロには引き込まれそうになる。聴いていると自然とリズムをとりたくなってしまう。盛り上がりがゾクゾクした。

(女子学生22)「シング・シング・シング」は、とても明るく弾むような曲調であった。指揮者はもっと激しく動くかと思ったが、それほどでもなかったのは意外であった。トランペットもクラリネットもソロがあり、どちらも良かったが、私はトランペットの力強くて、伸び伸びした音色が素敵だと思い好きになった。

(女子学生23)「シング・シング・シング」は乗りが良く、聴いていて楽しくなった。ディズニーのアトラクションで、BBBというアトラクションでも演奏している曲でびつ

くりした。ドラムが恰好良かった。トランペットもクラリネットもソロがあり凄かった。とてものがよく、聴いていて楽しい気分になれるのでこの曲が好きです。

(女子学生24)「シング・シング・シング」は開幕の拍手が鳴り止まないタイミングで演奏が始まったが、よい演出だと思う。トランペット、ドラム、クラリネットはソロを行ったが、それぞれが長いソロを効果的に行った。特にトランペットやクラリネットはソロの終わりこそ高音でやりにくいだらうと思うが、さすがソロ奏者見事に演奏しきって聴衆の喝采を浴びていた。

(女子学生25)「シング・シング・シング」は私も吹奏楽部に在籍していた時に演奏したことがありました。いろんな楽器のソロがあり難しい曲であると思いますが、さすがプロは見事な演奏で感動した。トランペットの音色大変気に入りました。「シング・シング・シング」は自分の好みの曲であり、鑑賞出来てよかった。

(女子学生26)「シング・シング・シング」は知っていた。とても恰好の良い曲でテンションが上がった。踊りたくなるような曲であった。クラリネットのソロが素敵であった。女性が演奏しているところも更に恰好良かった。スイング大好きである。

(女子学生27)「シング・シング・シング」はTVで見たスウィング・ガールズや沢山の吹奏楽団が演奏しているので、とても馴染みのある曲であると思う。全体的にとってもテンポやリズムが良く、特にドラムとトランペットの音が良く好きです。この曲をとっても聴き応えのある曲であるのでこれからも親しんで聴いていきたい。

(女子学生28)「シング・シング・シング」は何回も聴いたことのある曲であった。ソロのところはすごく恰好良かった。曲の最後は全員立奏であったのでとても良かった。

(女子学生29)「シング・シング・シング」は聴いたことがある曲だ。ドラムを使っているところが好きで、少しジャズっぽい。トランペットは大量の息を必要としそうで、大変な楽器そうに思える。

(女子学生31)吹奏楽曲の中で「シング・シング・シング」は特に好きである。今まで多くの演奏を聴いてきたが、このDVDが一番迫力があつた。この曲を生演奏で聴いてみたい。この曲を聴くと手拍子をしたくなる。トランペット、打楽器、クラリネットのソロが生かせる曲で



ある。

（女子学生32）「シング・シング・シング」はかつて演奏したことがある。凄くノリの良い曲である。グリッサンド奏法はさすがと思った。音量が結構出ているのによるさく感じないのは、やはり上手いバンドの素晴らしいところだと思った。クラリネットの高音があんなに綺麗に出るなんて。さすがはプロフェッショナルと思った。

（女子学生34）「シング・シング・シング」は聴いたことのある曲であった。何か、ドラマか映画で使われていたので、聴いたことがあるんだなと思った。すごくノリノリで元気の出る曲である。指揮者がとても楽しそうに指揮をしていた。最後の立奏は特に良かった。

（女子学生35）「シング・シング・シング」の最初はドラムから始まった。凄く好きな始まり方である。クラリネットのソロは見事な演奏であった。あそこまで演奏出来る人は極めて少ないのではないかと思う。

（女子学生37）「シング・シング・シング」は知っている曲であった。ドラム、トランペット、クラリネットのソロがあり、とても恰好良かったです。聴いている側も楽しくなる曲だったが、演奏している側もとても楽しそうであった。

（女子学生38）先生は高等学校までの吹奏楽演奏のレベルは世界中でも日本がいちばん高いと言われてビックリしたが、自分の出身高等学校が海外に演奏旅行に出掛けた理由も分かった。日本のプロの吹奏楽団の演奏水準も極めて高い。

（女子学生39）「シング・シング・シング」は高校2年生の時吹奏楽で演奏した。とても同じ曲とは思えないくらい素晴らしい演奏であった。各楽器のソロは何回聴いても恰好良く好きである。ソロパートは他の演奏パートと違い、格段に難しかったのを記憶している。曲の最後で最も盛り上がったところで、楽器を上に向けて演奏するところがいちばん気に入っている。

（女子学生40）「シング・シング・シング」はTVでよく視聴するが、このDVD演奏はトロンボーンの低音がよく響くのとドラムが上手いため踊りたくなるようであった。トランペットのソロも凄かった。最後は演奏者全員の立奏も観客の手拍子と同調するところも最高だ。

（女子学生42）「シング・シング・シング」は吹奏楽オーケストラの演奏であった。ドラムの人までスーツを着て

いた。聴衆は手拍子を打っていて、普通のかしこまったコンサートとは違った。曲の最後は演奏者全員立奏で、凄くノリの良い曲であった。

（女子学生43）「シング・シング・シング」は凄く明るく、ノリの良い曲であるから好きだ。吹奏楽で演奏しているのをよく耳にする。トランペット、ドラム、クラリネットのソロのうまさが際立つ。

## 注

- 1) ブリタニカ国際百科事典 3 ティービーエス・ブリタニカ (1972) p. 560
- 2) 音楽大事典 第3巻 平凡社 (1982) p. 1274
- 3) 音楽大事典 第4巻 平凡社 (1982) p. 2132
- 4) 東京都品川区立日野中学校, 東京都立小山台高等学校で、吹奏楽部に所属し、打楽器を担当。千葉大学教育学部音楽科卒。千葉県内公立小学校5校に奉職。5校全てを各種コンクールで計14回の全国一位に導いた。
- 5) BRAIN MUSIC
- 6) (株) エイベックス・マーケティング・コミュニケーションズ

